

新しい年を迎え

本別町農業委員会

会長 山西 輝美



新年あけまして

おめでとございます

昨年は6月、7月の長雨、低温、それに伴う作業の遅れ、減収、品質の低下と大変な一年でした。畜産業においても牧草、デントコーンの収量減で、飼料が不足する心配もあります。さらに、農畜産物の価格、消費の低迷は、農業にとって二重、三重の苦境に感じています。

昨年の政権交代で、戸別所得補償制度など農政も大きく変わっていきと思われま。また、農地法、税法が一部改正されましたがこれについては、1月25日の農業者の方々と農業委員会との懇談会にて説明したいと思。一人でも多くのご参加をお待ちしております。
新たな一年が始まりました。皆様ご家族のご健康、ご繁栄をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶いたします。

写真で見る

2009年 農業委員活動



農地パトロール

8月27日に実施しました。今回のパトロールは2地区を対象に行い、耕作放棄地と見られた農地はありませんでした。

耕作放棄地になる理由はいろいろありますが、小面積や傾斜、湿害を受けやすいなど、土地条件の不利が原因と思われるものが多いと考えられます。

今後も農業委員会の基本活動の一つとして、農地パトロールを継続していきます。

農業者年金について研修会

8月31日、陸別町タウンホールにて農業者年金についての研修会が開催されました。十勝東部（浦幌、豊頃、池田、本別、足寄、陸別）の農業委員が集まり、北海道農業会議の佐久間部長による講義を聞きました。

民間の年金保険などに比べて、節税効果や国の政策支援など、優位性のある農業者年金についての話がありました。



農地法改正内容の研修会

11月19日、札幌の道農業会議で、本年「一部改正」された農地法の内容について研修しました。講師は北海道農業会議の橋本事務局長代理にお願いしました。

農地法の改正部分として、企業の農業参入や、標準小作料の撤廃などについての話がありました。



《道内研修報告》

(11月19・20日)

道農業会議による農地法改正の

ポイントについて研修

農業振興部会長 荒木幸造

自作農主義から耕作者主義へ

今回の改正のポイントの第1は、従来は耕作者が農地を所有すべき(自作農主義)とされてきましたが、農地の所有権と耕作権を切り離し、農業生産法人以外の企業なども農地の賃貸などが可能(耕作者主義)になりました。

相続したときにも届け出が必要

今回の農地法改正により、農地を相続した場合も、速やかに農業委員会へ届け出をすることが義務づけられました。また相続人が多数であっても2分の1以上の方の同意があれば農地を貸し付けできるようにもなりました。耕作放棄地を発生させないためだそうです。

宅地への転用が

厳しくなりました

農業者が新たに住宅建設をする場合、農地の宅地への転用に時間がかかるようになりました。転用をお考えの方は農業委員会へ相談してください。

士幌町農業委員会の

取り組みを学ぶ

農地部会長 風間進

交換分合を進めるために、土地評価表によって農地価格を決めている士幌町農業委員会で研修してきました。

士幌町では昭和33年より通算50年、農地の交換分合を進めてきました。

対象地区ごとに農業委員の他に、交換分合地区推進委員6名を選出して、受け手を募り、現地調査により価格を決定、交換分合の協議を行っています。特に土地評価では大型機械作業の利便性を重視し、三角など土地の形状をきびしく評価しています。

「とにかく良く話し合う以外にありません」と言った山田会長の弁が印象に残りました。

本別では、農地の賃貸、売買価格は「農地マニュアル」によって決めています。士幌町を参考に、より実状を捉えて農地の評価に活かしていきたいという意見がありました。

そこ、農地では!? ちょっとだけ、「地目」のおはなし

住宅の裏でちょっぴり作っている家庭菜園。横のスペースに建てた車庫。市街地にお住まいのみなさん、そこは当然のように宅地、雑種地など『非農地』だと思いませんか?

土地には、法務局で登記簿に記載されている『登記地目』のほか、農業委員会では実際の状況を『現況地目』として管理しています。そのどちらか、また両方が「畑」「田」「牧場」などの『農地』だと『農地法』の制約を受けることとなります。

現況地目が『農地』になっている場合、農地以外の形状

にする(=転用)ときは農業委員会の許可が必要ですし、登記地目が『農地』であれば、賃貸や売買するにも「農業者」にしか移動できません。

確認の上、もしそこが『農地』であっても、各種届け出の後「地目変更登記」をしておけば農地法の制約を外すことができ、いつでも移動ができるため、資産価値を守ることにもつながります。

土地の移動や建物の建設の直前になって慌てる思いをするよりも、一度農業委員会で確認してみたいかがでしょうか。

選挙人名簿登録申請の提出は

1月8日までお願いします

本年も12月中旬に自治会長などを通じ、または戸別に選挙人名簿搭載申請書が配布されますので、必要事項を記載のうえ、平成22年1月6日(水)まで自治会長に、戸別に郵送された方は同8日(金)まで農業委員会事務局に提出してください。

また、農業委員の選挙権を有すると思われるにも関わらず、12月25日を過ぎても選挙人名簿搭載申請書の配布がされない場合は、農業委員会事務局までご連絡ください。



農業委員会懇談会を開催します

今まで、農業委員会の議論では出ていたのですが、なかなか実施できなかった農業委員会の「懇談会」を、今年1月に勇足と仙美里会場において、次の日程で行なうことにしました。

農業委員会の懇談会は管内でもいくつかの町で行なっていますが、本別町農業委員会としては初めての取り組みになります。どの地区の方でも参加できます。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。

『農業委員会懇談会』の日程と会場

勇足会場

2010年1月25日 13時～

勇足地区公民館

仙美里会場

2010年1月25日 13時～

仙美里農業担い手センター

*両会場とも、どの地区の方でも参加できます

参考借地料

(10a・円)

区分	自然条件	主たる地域	細区分	価格
			上畑	9,900
第一地帯	利別川沿いの平地帯であり、沖積土壌のおおむね平坦地で、肥沃で生産力が高い畑作地帯とする。仙美里・勇足(利別川沿い)、美里別川、本別川沿い。	共栄・共栄1・本別市街・美里別東下1～2・東本別・チエトイ1～2・追名牛・勇足東1～5・勇足市街・仙美里1～3・木札内・東仙美里・フラツナイ・弥生町	中畑	9,000
			下畑	7,100
			上畑	8,500
第二地帯	中高台段丘地帯であり、火山灰性土壌の中間の生産力を持ち、畑作・酪農混合地帯とする。仙美里・勇足(中高台地帯)、美里別川上流。	美里別西中・東中・西上・東上・高東・拓農・負殿1～2・勇足西1～5・上仙美里・奥仙美里・西仙美里・活込・押帯・美蘭別	中畑	7,600
			下畑	6,200
			上畑	7,600
第三地帯	高台山麓地帯であり、重粘土火山灰性土壌で、おおむね酪農経営を中心とする地帯とする。仙美里・勇足・美里別(高台山麓)。	上押帯・上拓農・清里・新生・美栄・明美・月見台・活込(高台)・押帯(高台)・美蘭別(高台)	中畑	6,600
			下畑	5,200
			上畑	4,300
牧草専用	牧草以外の作物の栽培には適さない農地とする。		中畑	3,300
			下畑	2,400

標準小作料が廃止され「参考借地料」に
今回の農地法の改正で標準小作料制度が廃止され、農業委員会は「参考借地料」を周知することになりました。
農地賃貸の際、参考にしてください。

農地評価表の評価項目

各10点満点で100点。「その他減」は総合的に適用

自然条件	①作土の判定	優～劣る
	②表土の厚さ	30cm以上～20cm以下
	③れき	ほとんどない～極めて多い
	④日照	良好～極めて日陰
	⑤排水・保水	優～劣る
利用条件	⑥面積	1ha未満～4.5ha以上
	⑦形状	正形～極めて不正形
	⑧傾斜	ほとんどない～急傾斜
	⑨作業道利便性	良好～作業路なし
	⑩災害等	ほとんどない～極めて多い
その他減	水田あと、小面積、鳥獣被害ほか	

農地マニュアルについて
平成12年から活用している「本別町農業委員会農地マニュアル」は、一定で公正な土地評価と価格の決定、地域アドバイザー(地域の農業委員が務める)による農地の受け手の募集や、優先順位を決める際の基本的事項を定めています。
紹介するのは土地評価表の概要です。



第8弾 元気な女性の雑感

今回は、昨年4月にオープンした道の駅「ステラ★ほんべつ」を取材しました。この道の駅は、町内の女性パワーが存分に発揮されている場所。そんな印象を強く受けました。



道の駅「ステラ★ほんべつ」

町民にも大好評

平成21年4月20日にNPO 銀河ほんべつ(河合篤史理事長)の運営によりオープンした道の駅「ステラ★ほんべつ」。11月までの延べ来店者数は、12万9千人ということで、ほぼ予想どおりだったそうです。そしてその約半数は町民でした。

NPO発足当初の願い通りに、町民の訪れやすい店作りができていますと事務局長の大西さんは話します。

本別町産にこだわった店

それを支える女性パワー

ステラに入るとまず野菜が目飛び込んできます。ジャガイモ一個10円、人参一本10円など、あまり目にしたことのないような売り方もしています。

野菜を持ち込むのは農業大学校や農家の奥さん方。売れ残りがないように毎日少しずつ、そして買いやすいように少しの量にするなど工夫がなされています。この野菜を買うために道の駅を訪れる町民も多く、旅行者にも大好評だったそうです。



売店の商品棚にはJA女性部やまめっこ倶楽部の豆類、豆ではりきる母さんの会のみそやドレッシングなどの加工品、そして、手作りの帽子やかご、布わらじなどの手芸品も並び、町内産にこだわった店づくりが見事にできています。そしてとにかく農家や町内の奥さん方の製品があふれていました。

女性のパワーは本場に素晴らしい。



できたて
あったかパン
人気です

パン工房アリコヴェール

『アリコヴェール』はフランス語で豆のこと。スペースの関係で小さな工房ですが、女性3人のスタッフが試行錯誤と工夫をこらし、アンやハスカップ、チーズ、土日限定5色豆食パンなど本別産の材料を使い様々なパンを作っています。窯が小さいため、少しずつ焼きながらフル回転しますので、いつも温かいできたてが並びます。人気の理由ですね。



左から 売店の小林さん、小川さん
工房の篠原さん(売店兼務)、山本さん、宇佐見さん

編集後記

昨年は「今日も雨か」と思いつながりながら農作業に汗した一年でした。例年の3倍の降水量が大気に浸透し、農業に大きなダメージを与え、苦勞された方も多かったのではないのでしょうか。

一方、被害を最小限にとどめ、平年に近い生産量の経営者もおられます。基盤整備の重要性は言うまでもありません。もう一度あなたの土地を見直してみませんか。まだまだ金銀財宝が眠っているかもしれません。今年も黄年です。目を光らせてみたいものです。

川上 茂男



左から事務局の大西さん、山岡さん、管理の貝瀬さん